

2025年3月社会健康医学系専攻専門職学位課程修了見込者 各位

医学研究科教務課大学院教務掛

2024年度社会健康医学系専攻専門職学位課程修了に係る
課題研究の成果のまとめについて

1. 「課題研究題目」の提出について

別添の課題研究題目届出用紙に「課題研究題目」、「共同研究者」等の必要事項を記入の上、期限までに提出すること。

①提出期限：2024年11月29日（金）23時59分まで

②提出方法：「PDF（記載した用紙に指導教員が押印したもの）」を以下URLのストレージへ提出すること。

https://fsv.iimc.kyoto-u.ac.jp/public/kh5KwDLZAOLAh2xev8uk-LI3N7EGAmEfT_rNhbBNsO1q

提出ファイル名は「氏名_提出日」とする。例) 京大太郎_20241129.pdf

ファイルをアップロードする際、ストレージの「コメント」内に課題研究題目を記載すること。

- ※1 倫理申請を必要とする課題研究は、倫理承認を受けて実施していることを確認し、提出すること。
- ※2 提出期限以降に題目を変更する際は、学生からではなく、指導教員から大学院教務掛へ連絡すること。
- ※3 所属研究分野以外のSPHの教員で共同研究者がある場合、主査・副査から除外するため届出に記載すること。

2. 課題研究の成果のレポートについて

(1) レポート構成

- A4判用紙にて題名・所属・入学年・氏名・提出日・要旨を1ページ、本文（図表などを含む）を8ページ以内、合計9ページ以内
- 課題研究を行った「過程」もわかるように作成すること。
- 課題研究の資金源および利益相反についても記述すること。
- 臨床研究者養成（MCR）コースは、研究プロトコルのレポートも可。

(2) 様式

- ・原則和文
- ・A4判・用紙の向きは縦長、文書作成ソフトによる横書き。
- ・左右上下とも概ね2.5cmの余白を取る。

・「課題研究レポート」

A4 判 9 ページ以内の PDF ファイルの提出

カラーを使用せず、白黒で提出

提出ファイル名は「氏名_提出日_課題研究レポート」とする。

提出後に差し替えが生じた場合、提出ファイル名を「(差し替え) 氏名_提出日_課題研究レポート」とする。例) (差し替え) 京大太郎_20250115_課題研究レポート

・「課題研究提出届」

別添の様式を利用すること (A4 判 1 枚)。

「PDF (記載した用紙に指導教員が押印したもの)」を提出。

提出ファイル名は「氏名_提出日_課題研究提出届」とする。

※ 期限を過ぎて提出されたレポートは原則受理されない。止むを得ない理由で期限に遅れる場合は、締め切り日までに、理由書を専攻長に提出する。

3. 課題研究発表会について

(1) 発表会日時・場所 (予定)

- ①日程：2025 年 2 月 4 日 (火) 全日・2 月 5 日 (水) 全日・2 月 6 日 (木) 午前の三日間
- ②時間：2025 年 1 月下旬頃連絡する。
- ③場所：基礎第三講堂

(2) 発表時間・方法

- ①所要時間：発表 12 分、質疑応答 13 分程度。計 25 分以内。
- ②発表方法：発表者は原則としてパワーポイントを使用して発表する。

4. 課題研究の成果のレポート (最終版 英文要旨含む) の提出について

- ①提出期限：2025 年 2 月 12 日 (水) 23 時 59 分まで
 - ②提出方法：「課題研究レポート (最終版)」を以下 URL のストレージへ提出すること。
<https://fsv.iimc.kyoto-u.ac.jp/public/QhJIwKdZANLHDZqh7IR2eePgG9ZLnhzQGLUtx02zVrpW>
- ・発表会前に提出した成果レポートの様式に加え、英文要旨を追加し、合計 10 ページ以内で PDF ファイルを作成する。
 - ・カラーを使用せず、白黒で提出する。
 - ・英文要旨は和文要旨のページと同様の様式
 - ・提出ファイル名は「氏名_提出日」とすること。
 - ・英文での提出の場合、1 ページ目と最終ページは同じ要旨として、和文の場合と同じページ構成の 10 ページ以内で作成する。
 - ・課題研究発表会後に題目を修正した場合、提出の際にその旨をアップロード画面のコメント欄に記載の上申し出ること (題目の修正に当たっては必ず指導教員による確認・了承を得ること)。

備考：(1) 課題研究成果発表会における特許出願等への対応について

- 特許出願の可能性がある発表内容は、原則として発表会以前に出願すること。
- 産官学連携本部に予め（公表予定の3ヶ月前くらいが望ましい）特許出願の可能性を相談すること。

*連絡先：京都大学産官学連携本部

知的財産部門特許出願・技術移転担当

電話：075-753-9181

ウェブサイト：<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/contact/>

(2) 課題研究における生成AI利用について

- 課題研究の成果レポートは、本来学生が主体的に学び、作成することが本質であり、生成AIの出力をそのまま用いることは学生自身の学びを深めることに繋がらないため不適切である。ただ、生成AIが今後さらに発展し社会で当たり前に使われることが想定されることから、文章校正や翻訳補助など主体的な学びの補助として適切に使うことは認める。
- 生成AIを利用した際は、どの生成AIをどのように利用したかについて、方法や謝辞などに記載すること。

(1) 開示方法の例

【生成系AI利用の開示】

本レポートの作成にあたり、著者（〇〇）は〇〇（生成系AIの名称）を〇〇（使用目的）のために使用しました。著者は、本AIを活用して得られた内容を吟味し、必要に応じて修正しており、提出物の全責任は著者にあります。

(2) 引用方法の例

〇〇〇 (ChatGPT, personal communication, February 16, 2023)

参考資料：APA “How to cite a nonrecoverable source” Retrieved from <https://apastyle.apa.org/blog/nonrecoverable-sources>, March 17, 2023.

(3) もしも生成系AIの出力情報あるいは翻訳校正等に関する文章そのものを引用する場合、その引用箇所がわかるように、指導教員の指示や当該学問分野（学会等）のルールに沿って、引用符を用いて明示すること。

(4) 長期的に参照可能な資料（書籍や学術雑誌に掲載された論文等）を使用することを推奨する。

(5) 引用が明記されていない場合は、剽窃・盗用とみなされることがある。

- 生成AIを利用する際は、別紙「大学・高専における生成AIの教学面の取り扱いについて」を参考に、生成AIを使うことのデメリット・問題点（技術的限界、情報の不確実性、著作権に関する留意点など）をしっかりと留意する必要がある。

医学研究科教務課大学院教務掛

Email: kyoumu-in@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp